

一般財団法人アジア政経学会 2024 年度事業概要報告書

アジア政経学会は、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日の間、以下の活動を行った。

1. 大会の開催

2024 年度も例年どおり、春季と秋季の 2 回、大会を開催した。春季大会は、6 月 15 日（土）～16 日（日）に神奈川大学みなとみらいキャンパスで開催された。5 つの自由論題セッションで計 14 件の報告、4 つの自由応募分科会で 12 件の報告が行われた。共通論題は、「アジア海洋秩序の現段階：グレーゾーン紛争と経済」と題して、アジア海洋秩序の現状とその安定化に向けた課題について、政治・安全保障および経済の観点からの検討が行われた。

さらに、国際シンポジウム・檜山セミナー「抑圧と抵抗の時代：アートとアクティビズムはアジアを変えるか？」では、検閲、展示妨害、ハラスメント、不平等、そしてネットにおける暴言の炎上といった 8 悪意や不作為に対する抵抗、抑圧や支配の構造に抗い、歴史の記憶を再構築し、現在進行形の社会問題へのアプローチを再検討しようとする表現活動を、特に「アート」と「アクティビズム」の観点から学術的かつ実践的に論じた。

1 日目には、会員総会、理事会、評議員会と、アジア政経学会優秀論文賞授賞式も行われた。

秋季大会は、10 月 5 日（土）に香川大学幸町南キャンパスで開催された。6 つ自由論題セッションで計 16 件の報告が行われた。共通論題「華僑・華人を出入域管理から捉え直す——香港・シンガポール・台湾を事例に」では、華僑・華人というカテゴリーについて、既存のナショナリティ・エスニシティ・アイデンティティとは異なる、国際労働力移動における監視・処罰・排除という視座と枠組から捉え直し、新たな議論を展開することが試みられた。

さらに初めての企画として、特別公開ラウンドテーブル「大平正芳の中国・東アジア外交」（大平正芳記念財団共催）が開催された。本ラウンドテーブルでは、川島真・井上正也編著『大平正芳の中国・東アジア外交』（PHP エディターズグループ、2024 年）の出版を受けて、香川県出身で開催校とも縁のある大平正芳のアジア外交を再考して議論を深めた。

研究大会のプログラムは学会の公式ホームページ（<http://www.jaas.or.jp>）に掲載されており、各セッションの議論の概要は同じくホームページ掲載の「ニューズレター」にまとめられている。

2. 定例研究会の開催

定例研究会は、主に若手会員を対象に、研究大会での報告の前段階として研究のレベルアップを図る場として設定されている。2024 年は 12 月 21 日（土）、2025 年 3 月 22 日の 2 回開催され、計 6 件の報告と討論が行われた。いずれもオンラインでの開催となった。定例

研究会のプログラムは、学会ホームページに掲載されている。

3. 学会誌の発行と公開

学会誌『アジア研究』は、第 70 巻第 1 号から第 4 号まで 4 冊を刊行した。研究大会で開催された共通論題をもとに、第 1 号に「特集：日本におけるアジア研究の遺産と展望」、第 4 号に「特集：グローバリゼーションとその反転：アジアの半導体関連産業の事例を中心に」が掲載された。また学会創立 70 周年記念企画として、第 1・2 号に「特集：アジア政経学会設立 70 周年記念 歴代理事長インタビュー」の「第 6 回・10 回」が掲載された。このほか、論説 4 本、研究ノート 1 本、書評論文 1 本、書評 10 本が掲載された。

『アジア研究』は、科学技術振興機構によるオンライン公開システム J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/asianstudies/-char/ja/>) を通じて 1954 年の創刊号から最新号まで自由にアクセスすることができる。

2022 年 5 月から、『アジア研究』は J-Stage の機能である「早期公開制度」を導入している。「早期公開制度」とは、審査・査読過程を経て採択となった論説・研究ノートを紙媒体での掲載号刊行を待つことなくオンライン上で先に公開する仕組みである。この制度の導入により、会員の研究成果をより早く発信できるようになった。2024 年 6 月からは、それを書評や特集論文などすべてのカテゴリーに広げた。

「早期公開制度」の全面導入に伴い、2025 年（第 71 巻）から当面、『アジア研究』の印刷回数を年 2 回とすることとした。1・2 号合併号・3・4 号合併号を、それぞれ 6 月末・12 月末に印刷刊行する。

2024 年には「アジア調査旅費助成制度」と『アジア研究』の特集号公募制度の導入を決定した。「アジア調査旅費助成制度」の第 1 回募集の詳細や応募フォーマットをウェブサイトで公開した。

4. ニューズレターの発行

ニューズレターは、第 62 号（9 月）と第 63 号（3 月）を発行した。2024 年春季大会と 2024 年秋季大会の参加記、第 21 回アジア政経学会優秀論文賞の選考委員長による講評と受賞者の言葉、定例研究会の記録、入退休会情報などを会員に提供した。

5. 顕彰事業

2024 年 6 月の春季大会にて、第 21 回アジア政経学会優秀論文賞の表彰式が行われた。この賞は本学会の学会誌に掲載された若手研究者の論文を中心に、同賞選考委員会が選考を行い、毎年授与されるものである。今回の受賞作は、菊地秀樹会員による「中国国民党による戦時動員と地域社会江南地域における忠義救国軍を中心として」（『アジア研究』第 69 巻第 4 号）であった。

6. 学会創立 70 周年記念事業

アジア政経学会は、2023 年に創立 70 周年を迎えた。理事会内に 70 周年企画委員会を設け、歴代理事長のインタビューなどを行い、それを『アジア研究』に連載したが、2024 年度はその概略を nippon.com でも連載し、目下その動画公開への準備が進められている。